

お任せするのも一つの手！ Win-Winの関係で省力化を図る

千代田町町内会

副会長 佐藤 節子さん (右)
副会長 後藤 千恵子さん (左)
せんだんの杜 杜の工房 管理者兼サービス管理責任者 安齋 昭博さん



将来を見据え集合住宅への広報物配布を 地域にある施設にお任せ

千代田町町内会の役員の年齢は60代から80代で、70代が最も多くなっています。東北福祉大学に隣接した場所にあることから、学生が居住するアパートも多く、坂道が多い地域。市政だよりや市議会だよりなどの広報物の配布にあたっては、今後、さらに会員の高齢化が進むことを踏まえた対策が必要とされていました。そこで、有償配布ボランティアや専任配布者に委託するのはどうだろうかと役員の間で考えていた際にひらめいたのが、町内にある就労継続支援B型事業所の「せんだんの杜 杜の工房」の存在でした。

佐藤さん：「一生懸命草刈りをしていた『杜の工房』の皆さんの姿をたまたま目にしてこの方たちにお願ひしたいと思ひました。『杜の工房』の職員の方々は以前から町内会の役員会や行事に積極的に参加していただひいたので、気軽に相談できる雰囲気もあり、早速相談させてもらひました。」

人の役に立つ仕事に 携わっているという喜び

佐藤さん：「地域の方からは、『杜の工房』に集合住宅への配布をお任せすることについて、具体的なイメージが持てないなどの声がありました。そこで、各班長へ書面で説明し、賛同をいただいた後、会員には文書で説明してご意見を伺ひました。また、アパートを管理する管理会社や住んでいる方々にもお知らせを配布するなど温かい気持ちで見守っていただけるよう配慮しました。」

実際に「杜の工房」の方々の配布が実現したのはそれから1年後の令和4年5月。広報物の配布を行っていることが分かるようにと、ビブスを着用し、配布を行っています。

安齋さん：「『杜の工房』利用者にとっても、毎月コンスタントに仕事があるのはとてもいいこと。交通ルールや訪問のルールなど、配布する担当者に覚えてもらわなけ



ればならないことも多いことから、配布は『杜の工房』の職員が同行しています。誰かの役に立つ仕事をしているという思いは、『杜の工房』利用者の皆さんの誇りになっていますし、ご家族の方々もそういう仕事に携わっているということにとっても喜んでひます。」

施設が地域に 溶け込んでいるという実感

後藤さん：「町内会と『杜の工房』間でLINEグループを作っていて、写真を添付した配布の完了報告や照会などの際に利用しているのひで、安心して任せられます。」

安齋さん：「黙々と作業をこなす『杜の工房』利用者姿を見た地域住民からは、励ましの声のかけや挨拶などもあり、『杜の工房』が地域に溶け込んでいると感じます。」

後藤さん：「皆さんとてもまじめに取り組んでくれて、本当にありがたいです。」

安齋さん：「仙台市内に就労継続支援B型事業所は約140か所ありますが、『杜の工房』のように地域の配布物をお願いされている事例は少ないのではないのでしょうか。当施設は障害や難病を抱えた方の就労支援を行う場所ですが、今回のように、地域からポジティブな意見をひ得てWin-Winの関係を築けている事例は稀だと思ひるので、ぜひ広まってほしいと思ひますね。」